

神戸親和女子大学との連携プロジェクト報告会を開催しました 児童の体力向上計画、学校・行政・家庭・地域の連携が必要！

市では、平成18年度から神戸親和女子大学と連携して、体力と生活習慣等との関連を検証し、より広い視点から体力について考え、実践していく取組みを推進してきました。

8月22日、取組みの結果報告会を出石文化会館ひばこホールで開催し、市内3小学校の児童の調査結果をもとに「生活習慣と体力の関係」「食生活と体力の関係」について、以下のような分析結果が報告されました。

①規則正しい生活は重要であるが、それ以上に大事な

- ②スポーツや遊びで体を動かすだけでなく、本を読んだり勉強したりするなどメリハリがあり、バランスの取れた生活が大事である。
- ③子どもの成長に応じた外遊びを経験することは、体力向上にも役立つ。
- ④運動が好きになり、もっと得意になりたいと思うことが重要である。そのためには、できるだけ小さいころから運動に親しむことが望ましい。

⑤体力が向上することは、単に体力面が向上するだけでなく、成績や生活など生活全般の質を向上させる効果が期待できる。
この報告を受け、市では学校や家庭、地域と連携した取組みを進めていきます。



▲親和女子大学発達教育学部教授の但尾哲哉さんによる報告

県消防防災航空隊と豊岡市消防本部の合同訓練を実施 地震により孤立した地域の負傷者を救え!!

8月25日、孤立した地域での救助活動を想定した県消防防災航空隊と市消防本部の合同訓練を、出石・但東両地域で実施しました。

訓練では、地震により道路が寸断されたとの想定で、県防災ヘリコプターを使い、被災情報の収集・伝達・救助の手順を確認しました。

県航空隊との合同訓練で、市消防本部の隊員が防災ヘリに乗り込むような訓練は今回が初めて。陸路では約30分かかる区間を防災ヘリは約6〜7分で移動しました。

市消防本部は「大変参考になった。今後も年1回程度は合同訓練をしたい」と話していました。



▲防災ヘリで救助訓練を行う市消防本部隊員

中見市長の徒然日記 ⑬

トホホな夏の終わり

またもや整形外科です。右の手首からひじの上までギブスでしっかり固められました。

実に情けなく、実に派手です。今年5月の連休中。早朝、メタボ撲滅大作戦で、エネルギー消費が通常歩行の2倍という後ろ向き歩きをしていて、置かれていた三角コロンに乗り上げて、くると転倒。右手が地面に負けました。

こんなことで豊岡病院を煩わせてはいけなさと辛抱していたのですが、痛みにたまらず、夕方救急へ行きました。「転倒？後ろ向き歩きええー？」医師も看護師も大笑いです。「先生、痛いんですけど」

「そうでしょうね、あはは」その後、紹介されて京都大学の手の専門医に診てもらい、経過観察を経て8月下旬に手術を受けました。で、右手ぐるぐる巻きです。

会う端から職員にはぎよつとされ、道ですれ違う人には「あれま、どうしなったん？」と聞かれ、反対側の歩道の人

からも大声で尋ねられ、コンサートに行く座席に次から次に行き合いが押し寄せ、飛行機では客室乗務員に「腕枕どうぞ」と枕を渡され、何だか注目度満点です。

9月4日、市内最高齢の北村よしさんにお祝いをお持ちしました。107歳で私の年齢の倍プラス1歳。「いつまでもお元気でいてください」と耳元で大きな声で話しかけると、「あんたも体をいたわって」と氣遣われる始末です。

たくさんの方にご心配いただき、感謝の極みです。ある人に「そんなことで市民の命を守るか」と一喝もされました。災害対策本部のトップとなるべき人間が、何ともお恥ずかしい限りです。

しかしそれでも、市民の命を守るためには、避難勧告も避難指示も、そして排水機の停止すらも躊躇せず決断する覚悟はできていますつもりです。



何事も、後ろ向きはいかんぞ。